

❀ 平成21年 年頭のご挨拶 ❀



松井大悟

JSTT 日本非開削技術協会 会長

新年明けましておめでとうございます。

平成元年に設立されましたJSTTの理念は、「ガス、下水道、水道、通信、電力など地下パイプラインの調査、検査、建設、維持管理、マッピング等に関する非開削技術情報の交流により、わが国の地下利用技術の進歩、および安全性の向上を図り、広く社会公共の福祉の増進に寄与すること」となっています。非開削技術は、現地盤をできるだけ乱さない、建設発生土の減少による現況の維持ができる、交通渋滞による経済的損失やCO₂発生量の抑制ができる、工事中の景観の維持が保たれる等環境にやさしい技術です。この認識を広く世の中に受け入れていただくようJSTTは20年に及ぶ活動を続けてまいりました。この間次第に非開削技術の評価が高まりその採用が増加してきており、今後この評価をさらに高めるべく努力してまいります。

本年はJSTTにとりまして重要な年となります。一般法人法が改正されその施行が昨年12月に始まりしました。当協会は事業が多岐に渡り所管省庁も多いため、法人格を取得することが複雑でしたが、今回所管省が内閣府に一元化されたため所管の問題は解決されました。昨年の総会・理事会において定款等が承認されておりますので、本年早々に一般法人として届出をいたします。そして社会に対して非開削技術の普及等の公益事業をさらに拡大し公益法人への道を目指して行きたいと思っています。

昨年の研究発表会におきましては25件の応募がありこれらを6部門に分けて発表していただきました。さらに国際非開削技術協会の受賞技術を英国のジェイムス氏に紹介していただきました。社会的コストに関する分野を設けた等、内容は非常に高度でかつ多くの分野をカバーし日本の非開削技術の状況が一度に把握

できる貴重な論文集が出来ました。会員の方に広く読まれるよう期待をしております。

平成17年度より発足しましたHDD工法委員会は標準設計・積算資料を作成し利用者への広報を積極的に行っており、工法の普及を図っております。さらに技術の発展に伴い、19年度よりこの指針の改定を行ってまいりましたが、本年度早々に発刊する予定です。ご期待ください。

ホームページは国内・外国の情報をさらに充実させるとともに、インターネットを利用して推進工法の設計をサポートする「工法ナビゲーションシステム」の運用が本格化していますがさらに最新の改築更新技術も加え充実を図っていきます。

昨年6月にロシア・モスクワで開催されたNO-DIG・2008において日本サイドより2編の論文、3編のポスターの研究発表が行われました。資源大国となり、発展するロシアの勢いを感じました。今年のNO-DIG・2009は4月にカナダ・トロントで行われます。この大会は北米技術協会と同時開催となるため、例年展示会は非常に多くの企業が参加します。多くの会員の参加を期待しております。

昨年は当協会を設立、発展されました遠山名誉会長が逝去されました。（本文に追悼の辞を書かせていただきました。）非常に残念なことでありますが、気持ちを新たに石川、楠田、佐久田各副会長、理事、監事の方々のご支援を得て協会の発展に努力をしていく所存です。日本におきましても、インフラの構築・維持のためには非開削技術の必要性はますます高まっています。会員の皆様におかれましても、この流れに乗り新しい年こそ飛躍の年になることを祈念して私の挨拶といたします。